

福祉用具の事業は？認知症高齢者の利用は？
“福祉用具”の果たす役割を考える

介護保険制度下の福祉用具事業

東島弘子著／A5判・一六〇頁／定価[本体二〇〇〇円＋税] 研成社発行

福祉用具は介護が必要な高齢者にとって不可欠な道具である。それは介護保険の中で、ホームヘルプサービス(訪問介護)などよりも、利用されているサービスということからも伺える。その反面、福祉用具というと「よくわからない」という声も、専門職の間から聞かれる。車いすや移動用リフトといった種類別の操作の仕方や、その人に合った機種を選び方に関する書籍は、多く出版されているが、「福祉用具」と、横断的に考える書籍は、数えるほどしか出版されていない。

本書は、3本の独立した研究から構成されている。1つめは日本の福祉用具の歴史と現在までの経緯を俯瞰し、介護保険制度でどのように変化をしたのかを明らかにした。2つめは、認知症高齢者の利用について福祉用具サービス計画と自立度調査などを通して、どのような改善が必要かを考察した。3つめは近年の介護保険での福祉用具施策について、とりわけ福祉用具サービス計画について事業者団体がどのように役割を果たすべきか、幅広く課題を浮き彫りにした。いずれも「福祉用具」を横断的にとらえ、今とこれからを考える試みである。

論文の形式を取ってはいるが、この本の調査内容と考察は、福祉用具に携わる事業者、セラピストはもちろんのこと、行政(自治体)、ケアマネジャー、訪問介護員、研究機関、福祉用具市場と経営に関心を持つ人にとって役立つ情報がたくさん含まれている。ケアマネジャーの研修、訪問介護員の初任者研修、福祉用具専門相談員の指定講習などの参考図書として活用していただきたい。

【おもな目次】

I部：介護保険制度における福祉用具供給体制の課題(研究の目的と課題、ゴールドプラン以降の福祉用具供給体制の変遷、介護保険制度における福祉用具供給体制、民間事業者の参入動機と現状、福祉用具貸与事業の現状分析など)

II部：福祉用具サービス計画に見る認知症高齢者の福祉用具利用

III部：介護保険制度における福祉用具施策に関する事業者団体の役割

注文書

メール送信の場合、PDFに変換後、添付してください。送料は全国一律400円です。

『介護保険制度下の福祉用具事業』を()冊、注文します。

ふりがな	
申込者	
法人・部署名	
住所	
電話番号	
E-mail	(携帯)
	(パソコン)